

## 「土壌医資格登録と継続研鑽に関する要綱」の改正

### — 個別の土づくり業績のメニューが増加し CPD 取得が容易になりました —

「土壌医資格登録と継続研鑽に関する要綱」が 10 月 25 日付で一部改正されました。今回の改正で特に業績面での CPD 取得が容易になりました。今後、積極的に申請していただくことを期待いたします。

なお、新たな仕組みの下での業績申請は、本年 10 月 25 日から受け付けます。

#### [改正の趣旨]

土壌医資格登録者の評価を今後一層高めていくためには、多くの土づくり成果を上げていくことが重要です。

これを推進する上で CPD 認定の面からは、土づくりアドバイザー等多くの資格登録者がいる層から業績を申請しやすくしていくことが重要で、このため、成果の大小を問わず、一定レベル以上の成果をあげたのであれば、幅広く評価していくことが必要です。

一方、本年 9 月の「優良土づくり推進活動表彰実施要領」制定過程において、土づくりアドバイザー等多くの資格登録者のいる層が表彰されやすくする仕組みを整備すべきであるとの意見が幹事数人からありました。

これを実現していくためには、多くの資格登録者のいる層からの業績申請を行いやすくしていく必要があり、このため、今回、現行の業績申請の仕組みを変更することとしました。

具体的には、CPD 認定対象プログラム内容の中の業績の種類を細分化し、より多くの資格登録者が申請しやすいように改正しました。

今回、改正した認定対象プログラムの業績内容は「土づくり実践や指導により作物の収量、品質改善、コスト低減のいずれかが達成できた成果」であり、以下の改正部分の抜粋のとおり A. 地域(産地等)の取組と B. 個別の取組に分けて細分化するとともに、種類に応じて CPD 単位数を設定しました。

[現行と改正の内容]

1. 土壌医資格登録と継続研鑽に関する要綱の別表（業績部分抜粋）（現行）

（今回、改正部分はアンダーラインの箇所です。）

u003cbr /u003e

別表

（土壌医関係 CPD 認定対象プログラム内容と CPD 単位数）

形態区分	内 容	CPD 単位	CPD 単位数	協会への CPD 単位実績申請
業績	<u>土づくり実践や指導により作物の収量、品質改善、コスト低減のいずれかが達成できた成果(要レポート提出)(成果内容で単位数が異なる)</u> 5	件	10～50 単位/件	◆個別に申請
	農家グループ等が表彰事業で受賞(土づくり関係を含む場合)(表彰事業の内容によって単位数が異なる) 6		10～30 単位/件	◆個別に申請
	土づくり文献の解析のレポート(多くの資格登録者が関心を有するテーマや内容のものが対象)		5～10 単位/件	◆個別に申請
	土壌医の会の活動業績 7 (当該単年度に、正会員平均で 10 単位/人以上となる活動を行なった土壌医の会が対象で、活動に関わった正会員各人に対して土壌医の会の活動業績に応じて単位を付与)		3～15 単位/人	◆土壌医の会で一括申請

注:1. 協会に CPD 単位の実績申請するためには、次の証拠資料等が必要である。

5 業績レポートは 800 字以内でまとめ、関係するデータや写真等を添付する。

(この他の注については省略)

2. 土壌医資格登録と継続研鑽に関する要綱の別表（業績部分抜粋）（改正後）

（改正部分はアンダーラインの部分です。）

>

別 表

（土壌医関係 CPD 認定対象プログラム内容と CPD 単位数）

形態区分	内 容	CPD 単 位	CPD 単位数	協会への CPD 単 位 実 績 申 請
業 績	<u>土づくりの実践、指導及び実証調査による作物の収量・品質改善やコスト低減成果</u> 5 （要レポート提出）（成果内容で単位数が異なる） A. <u>地域（産地等）の取組</u> <u>地域の作物生育不良要因の解明と改善対策の成果</u> B. <u>個別の取組</u> a. <u>土壌診断（化学性、物理性、生物性）、生育診断による作物生育改善等の成果</u> b. <u>現地実証調査による成果</u> （排水対策、資材等の効果） c. <u>新技術導入による実践成果</u> （施肥方式、灌水方式等の改善） d. <u>その他の成果</u> （創意工夫による土づくりに関係する改善成果） この他、業績 ~ については従来どおりの扱いです。	件	10～60 単位/件  5～30 単位/件	◆個別に申請

注 5.業績 については次の要領でとりまとめる。

(1)業績は土づくりに関係する取組みにより基本的に作物の生育、収量や品質の向上、病虫害発生の抑制、コスト低減、労力節減等に寄与したものを記載する。

1) A. 地域（産地等）の取組

・改善対策の成果が個々の農家や対象圃場以外の周辺に普及しつつあることがポイントとなる。

・取組の成果は 800 字以内でまとめ、関係するデータや写真等を添付する。レポートの構成は テーマ、取り組んだ背景、取組み内容、主な成果、成果の普及とする。

## 2) B. 個別の取組

### ア、a~dの例示

- a. ・ 土壌診断又は生育診断の結果、改善点が明確となり、作物の生育や生育環境の改善が見られた取組み事例、  
・ 作物別の土壌の化学性、物理性等について望ましい診断目安の設定事例
- b. ・ 畑の排水、水田の減水深等の対策の実施により改善が見られた取組み事例、  
・ 肥料や土壌改良資材の効果を評価した取組み事例
- c. ・ 畝内施肥等施肥方式や施肥時期等の改善により作物の収量、品質やコスト低減等が見られた取組み事例、  
・ 灌水回数、灌水量等の改善により作物の収量、品質やコスト低減等が見られた取組み事例
- d. ・ 農業者等において借地等において堆肥、緑肥等の投入により生育環境の改善が見られた取組み事例、  
・ 堆肥製造関係者によっては堆肥の品質が向上した取組み事例

イ、上記 a~d の成果については、極力写真、データ、受益者の感想等客観的な裏付けとなるものを申請書に盛り込む。関係するデータ、写真入り等で A4 版 1~2 枚程度にまとめる。

ウ、レポートの構成は テーマ、取り組んだ背景、取組み内容、主な成果、今後の課題とする。

(2)A. 地域(産地等)の取組、B. 個別の取組とも取り組んだ資格登録者名と土壌医、土づくりマスター、土づくりアドバイザーの資格登録名と登録番号を記入する。

また、複数の方で取り組んだ場合にはそれぞれの名前を記入するとともに、寄与割合を記入する。

(この他の注については、従来どおりです。)